

※今月のみ受注の書目です。

デザイン／書物史 で担当者さま

杉浦康平と写植の時代

光学技術と日本語のデザイン (2023 年 3 月中旬刊行予定)

阿部卓也 (愛知淑徳大学創造表現学部准教授／デザイナー) [著]

A5 判上製／456 頁 税込予価 4,400 円 ISBN978-4-7664-2880-3 C3071

👉 ココに注目！

- ・杉浦康平は「写植」という新たな技術といかに向き合ったのか？
- ・当時を知る人々への調査や原資料の分析から、杉浦が広げた日本語のデザインの可能性を明らかにする試み。

戦後日本のブックデザインの世界を牽引したデザイナー・杉浦康平。彼は写植という新たな技術といかに向きあい、日本語のデザインといかに格闘したのか。杉浦康平本人や杉浦事務所の歴代スタッフ、印刷技術者など様々な人物へのオーラルヒストリー調査や当時の原資料から、杉浦が日本語のレイアウトデザイン・ブックデザインに与えた決定的な影響を明らかにする。

対象 デザイナー、出版業界従事者／書誌学研究者

類書 杉浦康平『杉浦康平デザインの言葉』(工作社)

【営業部からのおすすめポイント】

本書は、戦後の日本のデザイン、特にブックデザインの世界に多大なる影響を与えた杉浦康平のデザイン論ですが、同時に戦後日本の印刷・組版技術を担った写真植字の技術論でもあります。また、その高い資料的価値の一方で、著者の筆力によりデザイン・書物史の教養書としても非常に読みやすく仕上がっています。デザイン／出版関係者は手元に置いておきたい一冊です。 (乙子)

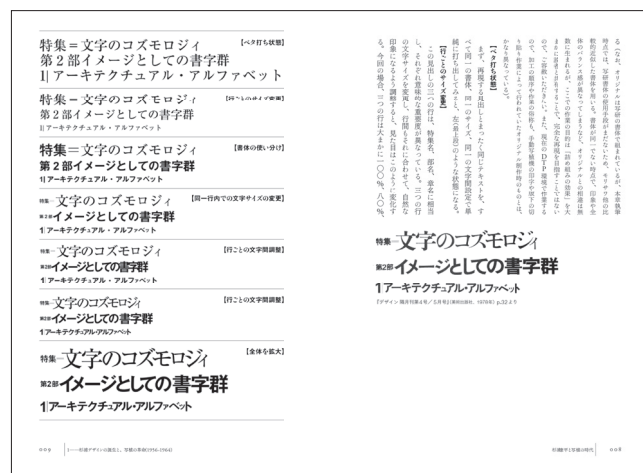
👉 内容見本、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【内容見本】 杉浦康平事務所のチーフアシスタントを務めた佐藤篤司氏によるデザインです。



1章——杉浦デザインの誕生と、写植の革命（1956-1964）

一九六〇年前後に、杉浦康平が日本語の文字を詰めて組むというスタイルを開始した過程を詳細に検討し、その意義を、技術や社会の状況との関係から論じる。写植の他に、活字とグラフィスの接点としての新聞広告や、西洋文化を翻訳受容する実践としての音楽コンサートポスターなどのデザインにも注目する。——杉浦康平「Y&B」



👉 ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124 👈

番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
新刊委託		阿部卓也 著 杉浦康平と写植の時代 —光学技術と日本語のデザイン ISBN978-4-7664-2880-3 C3071	4,400 円	★★

★1つで「500部」を表します